

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1172700492		
法人名	社会福祉法人 誠由会		
事業所名	グループホームハピネス狭山		
所在地	狭山市富士見2-16-8		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成26年11月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な雰囲気とゆったりとした時間の流れのなかで、入居者様ひとりひとりにその人らしい生活をして頂けるよう、見守り重視のケアを心掛け、出来るだけ自立して生活して頂けるように環境を整えての支援、実践をしている。  
 その方の生活歴から得意なこと、昔やっていたことなどを把握した上で、役割を担って頂きながら日々の自立支援に繋げている。  
 また、職員は、日々の楽しみとして時節柄の行事を大切にし、おやつ作りやレクリエーションなど、様々なアイデアを出し合いながら入居者の方々とともに毎日楽しみながら支援に携わっている。  
 事業所の特性上、グループホームは5階にあり眺めが良い。天気が良ければ富士山を眺めることができたり、11月には自衛隊の航空ショーが見ることができたりなど入居者様やご家族様にも喜ばれている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・「自分の親を入所させたい」との職員の意識と思いがケアに反映されている。重度化により外出の機会がなくなった利用者には、中で楽しめるレクリエーションを考え、体操で体を動かしたり、ペランダでのバーベキュー、季節感を味合うおはぎやうどん打ちなどを行い、楽しんでいただけるよう工夫が図られている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「管理者を中心にスタッフの方々の連携の素晴らしさを感じています。なによりも心のこもった介護を受けることができ「家庭の温もり」があります」、「細かいところまで気を付けて頂き、本人の気持ちに寄り添ってやさしく接して頂いています」などのコメントが寄せられ、事業所の温かさや優しさに高い評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、地域と連携した防災対策作りに取り組み、地域の避難所としての役割を担う提案を図るなど、相互協力体制の構築を進められたことから、目標が達成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング及び業務時に職員間で理念の再確認、徹底を図るよう心がけている	自分の業務の振り返りに理念が用いられ、常に理念に立ちかえり、利用者の出来ることはやっていたりなど、利用者主体に「待つてあげる介護」の気持ちで、過剰なケアにならないよう実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前入居されていた方の娘さんがボランティアとして週一回程度来訪され、入居者の方々と交流を図っていただいている。また、地域の夏祭りや事業所の納涼祭など地域との交流を深めている。	散歩や近くの魚屋さんに出かけたりすることで、近隣とのコミュニケーションを図れるよう支援がなされている。また、地元の看護学校の実習生を受け入れて、「認知症の介護」について学んでいただくなど、地域貢献にも取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が市や地域包括支援センターが主催する「家族の集い」に参加し、認知症を抱える家族からお話を伺ったり、介護現場での支援方法を伝えたり、キャラバンメイトとして学生向けに認知症サポーター養成講座に参加するなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加されるご家族は少ないが、事前にご意見を伺い、議題になるような事があれば積極的に議題に取り上げている。また会議内で助言を受けたことはミーティングや議事録等で伝達し、さらなるサービス向上に生かしている。	広報誌「LOVE LETTER」を会議の議題にし、利用者のことを中心とした話し合いが行われている。会議の中で、お正月に餅を振る舞うことが提案され、皆で検討し、参加者から安全な食べ方の知恵とアイデアが出され、実現された事例も見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事例検討会、研修に積極的に参加している。また、狭山市における介護保険サービス事業者協議会にも役員として参加し、市町村担当者とも密に連絡を取り合っている。	毎月実施される市の事例検討会に参加され、医療機関、民生委員や地域の方々と幅広い情報交換に努められている。また、市の事業である「介護者の集い」などにも専門的な立場からアドバイスなどの連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については開設以来一度もない。職員に対しては入職時にマニュアルにより説明している。研修にも積極的に参加し、伝達講習をしている。見守り重視のケアが身体拘束をしないケアにつながり、職員間でも徹底している。	「自分や親がされたら嫌なことはしない」との考えが浸透され、「上から言葉」や「命令口調」には特に注意が払われている。「何でもやってあげる」ことは逆に拘束につながることから、利用者の動きを「待つ」ケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力による虐待はもちろんのこと、言葉での虐待もないように、言葉使いにも気を付け支援していくことをミーティングなどで話し合い、職員間で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については資料等を用意し、研修も含めて積極的に参加し活用できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や計画作成担当者から十分に説明を行いご理解、納得をいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加を呼び掛けるとともに、定期発行物にも前回の議事録を添付している。面会時に伺った要望等は運営推進会議の議題にあげたり、職員間でも共有したりするなど、運営に反映させている。	利用者からは1対1で話を傾聴するよう努められ、心の思いを汲み取るよう取り組まれている。家族には面会時や病院受診に来られた時に声をかけ、利用者の様子やどうやって今後関わっていくかなどのお話し合いも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ミーティングを開催し、業務内容、支援方法など運営に関する話し合いを行い積極的に運営に関して提案の場を設けている。また、業務内においても常に話し合えるような機会を設けるよう努めている。	職員はレクリエーションや行事企画、利用者の日々の情報などに、積極的な意見具申がなされ、会議で取り上げ、担当者を決めるなどして実行されている。「記録」と「会話」により、職員間のコミュニケーションも図られ、常に情報の共有が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内の会議などで現場での状況把握を務めるとともに、個別の面談や、業務内にちょっとした話などから、職員の労働条件や仕事への思い、やりがいなどを把握し、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力に応じた職員育成を行っている。また、外部の研修にも参加できるような体制を心がけており、研修を受けたものが他職員に伝達講習を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護サービス事業者協議会や外部研修、情報交換会などに参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっての事前情報を職員間で伝達、共有するとともに、日常生活の中でコミュニケーションを図りながら不安要望に耳を傾けて支援に活かすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際ご家族の要望等を伺い、支援の方法を提案。電話連絡時、来訪時に様子を伝えたり、再度要望を伺ったりしながら関係を築きあげるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めるため、職員間で話し合う。必要なら再度ご本人やご家族から意見を伺い、支援に反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はその方の全体像をとらえるよう努め、楽しみや喜びを感じられるよう、また、生きがいとなるような役割を持って生活していけるような支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時、積極的にお話しするよう機会を設けている。また、必要な情報をご家族にも提供することで日ごろの生活を把握していただき、ともに支えていく関係を築くよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力により食事や外出、お墓参りや自宅へ行かれる方もいる。お部屋の中に電話を設置され、友人や親族からの電話や、その友人が訪ねてきたりされる方もいる。	電話かけの手伝いや、友人が通われている1Fのデイサービスのレクリエーションと一緒に参加するなど、昔からのつながりが途切れないよう支援が行われている。他の施設に入居されているご主人へ家族の協力で会いに行かれる利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が回り合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をたたんだり、食器を洗ったり、食事の下ごしらえをされたり、日常生活の中で共同で作業をしていただいている。その中でお互いが支えあうような場面があり見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者のご家族様にも行事などに参加していただいている。入居していたころの母にはできなかった事やその当時の悩みなど何うことで、家族側の思いなども知ることができ、ご家族への対応などの参考にさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の思いや暮らしの要望などをご家族やご本人に伺い、生活歴の情報収集するよう努めている。	家族が記載される「くらしのカルテ」をもとに、その利用者の人となりを知り、じっくり話を聴いてあげること、思いや意向の把握に努められている。また、利用者の生まれてからの生い立ちも把握され、参考にされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の生活歴などを記入して頂くシート有。ご家族に記入して頂いているが、必要とあれば担当ケアマネージャーとも連絡を取り合い情報収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の勤務の上で申し送りや連絡ノートを通じ、職員同士の情報の伝達、共有を図ることで状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来訪時に情報を伝達したり、面談を行ったりして要望等を伺っている。それらは連絡ノート等で職員間へ伝達。職員間でも定期的にモニタリングをし、意見、アイデアをあげ、計画作成担当者が介護計画作成に反映している。	モニタリングで利用者・家族のニーズを把握し、サービス内容に反映させるよう取り組まれている。常に今のケアがプランに合っているか、どういう点が変わっているのかを話し合い、見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の生活記録を基に、気づいたこと、発見したことなど職員間で情報を共有して支援をしている。必要ならミーティングを活用し、職員間での徹底を図る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	起床時間や就寝時間について、おおよその時間はありますが特に設定はしていない。その人らしい生活を送っていただけよう心がけている。ご家族の訪問時間も基本的にはいつでも可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの弁当屋に弁当やサンドイッチを買いに行く。事業所隣にあるファミリーレストランで外食すること有。また、近所の焼き鳥屋では忘年会を開催した。事業所1階には歯科医院や美容室があり、定期的に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に通院介助をしていただいている。日ごろの状況を伝え受診していただいているが、必要とあれば書面や相談員を通じて情報を提供したり、状況によっては職員同行にて医師から直接話を聞くなどの対応をしている。	職員が通院同行できなくても、病院へ直接連絡して、現在の状態を伝え、受診後は家族から話を伺い、連絡ノートで職員への周知が図られている。往診していただけるかかりつけ医もおられ、情報のやり取りが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所のディサービス看護職員に情報を伝え、相談、処置などの連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はご家族から情報を伺ったり、お見舞いに行った職員からの情報を共有したり、入院先の病院関係者やMSWなどと連絡を取り合ったりして情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の終末期の方針について、ご家族には入居時に説明するほか、その都度、個別の面談等で説明しながら、今後の方向性や、現状で施設が出来うることを含め、ご本人にとっての暮らしと一緒に検討していただけるよう努めている。	「何が起きてもおかしくない」との体制で、最後をどうされるのかは家族の要望に沿い、医療との連携も図りながら次の施設や病院の情報提供が行われている。利用者にとって一番良い方法を考え、家族の不安などへの対応もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の消防、避難訓練を定期的に行っている。近隣居住の職員が多いこともあり、事業所内での連絡体制をとっている。自治会活動参加を継続して行い、当施設が高齢者住居ということをも以前より認識していただいている。	設備点検、コンセント周辺の清掃などは常に行われ、建物の特性から、消防署との連携で「水平移動の避難訓練」が実施され、職員への周知を図るとともに地域の住民に見ていただいている。さらに地域の避難所としての災害防災基地の構想も検討されている。	防災対策において地域との相互協力は大切であると想定されることから、今進められている災害防災基地としての地域の避難所の役割を果たす相互協力体制作りを実現されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴やご家族からの情報を基に、好きなこと、嫌いなこと、介護に対する要望や願いなどを把握し、職員間でその人が中心となるような対応を心がけている。	着替えや整容などは利用者が選択できるよう声かけし、一人ひとりの意志を尊重した支援に努められている。また、個人情報の取り扱いなどはミーティングなどで指導され、外部からの問い合わせにも家族に確認するなどプライバシーの確保が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択できることはご本人に選択して頂けるような声掛け、対応に努めている。また、喜怒哀楽の感情が出せるよう、自分らしさが出せるような環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望等を聴き、その時々で臨機応変に対応するように心がけている。入居者の方々のニーズに合わせて一日を過ごすよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装について、起床介助時や更衣時など、季節やご本人の好みやにあわせて何枚か選択し、選んで着ていただくよう支援している。理美容は当事業所1階にあり、定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、食べやすさにも配慮しながら楽しい食事を心がけている。配膳、下膳、食器洗いなど出来ることはお願いしている。食べ残すことに罪悪感を感じる方もおられる為、個々の食事量も把握し残さない様に調整している。	昔からの習慣や季節感のある食事を楽しむことを大切に、おはぎ作り、うどん打ち、更には正月のお餅の提供などが、周囲の協力で実現されている。みんなで作るメニューには利用者も調理に参加され、また、宅配や外食なども取り入れ、楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は日々の生活記録に記入し一人ひとりの状態把握に努めている。一日を通して不足気味と思える際は、その方の嗜好を考えながら他の食材などで補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が見守りや声掛けなど一部介助をしながら行っている。また、定期的に歯科受診をすることで歯科医師の助言をいただきながら、口腔内のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄記録や排泄パターンを職員間で把握することや、表情やしぐさなどの言葉以外の部分からも察知してタイミングの良い声掛け、誘導を行い、自立に向けた支援を心がけている。	居室のトイレ便座の高さを調整したり、使い方の習慣などにも対応され、不便さの解消に努めることで自立へ向けた支援が行われている。また、排泄の声かけは周りの目にも注意し、それとなく誘導するよう気配りがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄しやすいよう水分摂取を促したり、食物繊維や乳製品などの排泄を促しやすい食材を献立やおやつなどに取り入れて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、夕食後に入浴を楽しむことができるよう支援している。また、夕食後に限らず、入居者の方々やご家族の要望もあり、昼間の入浴もできるよう業務内容の変更を行い入浴介助している。	利用者の快適な眠りのため、夜就寝前に入浴支援が長い間行われ、健康維持への効果にもつながられている。スーマの利用者には羞恥心に配慮し、安心して入浴していただくため、曜日や時間を決めて入浴できるよう対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、個々に休息がとれるよう対応している。本人のペースに合わせて仮眠や休息を促している。起床や就寝の時間についてもそれぞれ異なる為、個々に応じて声掛けや見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し個々の内服薬についての目的や副作用、用法、用量を把握している。変更の際は必ず申し送り、情報を共有している。内服薬はきちんと飲み込むまで職員は確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族の情報を基に、一人ひとりの生活歴を把握し、それに応じた役割やできる事、好きな事な何か、職員間で検討し支援に反映している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせての年間行事として外出を企画。春の花見や夏の自治会納涼祭、秋のミニ旅行、冬の忘年会や初詣など、定期的に外出の他、病院受診や買い物など、職員だけでなくご家族の協力もあり個別に出かけられるよう支援している。	個別対応することで外に出る機会を作り、近所の魚屋に買い物に出かけるなど、利用者が楽しめるよう取り組まれている。また、家族やボランティアの協力で忘年会や初詣などにも出かけられ、自宅に帰って近所の方と食事をするなどへの支援も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から個人用にお金を預かり買い物などの際要望があればいつでも使えるよう支援している。なかには個別にご自分の財布を持っている方もおられ、その中から買い物や歯科受診などでの支払いをされている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話設置環境あり、固定電話を利用されている方がいる。また、携帯電話を持ち込まれ利用されている方もいる。それ以外の方でも事業所内の電話を使用できるよう支援している。友人や知人、家族に連絡を取っている様子あり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に畳敷きの和室を設けている。季節の花々や歳時物(雛飾り)などを飾り、日常生活の中に家庭的な雰囲気を取り入れている。ベランダでは洗濯物を干したり、家庭菜園をおこなったりするなど生活感や季節感を感じてもらえるよう工夫をしている。	ベランダに出て景色を楽しむことが可能で、建物の5階という特徴を活かした共用空間作りがなされている。また、廊下には利用者がくつろげる場所を設け、和室には季節の飾りを置くなど、季節や歳時を感じられるよう工夫が図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内、共用空間の中に椅子を多めに配置し、リビング、ベランダ、廊下、日当たりのいい場所や居心地のいい場所を見つけ、思い思いに過ごしていただけるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居心地のいい部屋になるようご家族とも相談し、好みや習慣に合わせたものを自由に持ち込んで頂きながら居室レイアウトを検討している。ADLも含めての動線の確保に合わせてベッドやタンスなどの配置を工夫している。	利用者のこだわりを大切に、机、椅子、食器棚やFAXなど、これまでの生活歴に合わせた物が自由に持ち込まれている。清掃は利用者と職員が一緒に行い、家族が手伝ってくれることもあり、衛生面や環境面への配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で一人ひとりの「できること」「わかること」の情報を共有しチームケアを行っている。危ないからといってすべてを取り上げるのではなく、その方の現状を把握した上で、できるだけ自立したその人らしい生活が送れるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームハピネス狭山

## 目標達成計画

作成日:平成 27年 2月 2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策時の地域との協力	災害時の地域との協力体制づくりの継続	内部の取り組みとして連携の強化体制の構築を継続して行っていく。 近隣への周知として自治会などの行事参加、納涼祭へ近隣住民の方に参加をお誘いし、地域の中で暮らす認知症高齢者施設の存在を地域の方へ広め、相互の消防訓練に参加する等、地域との交流を深め相互協力の体制作りを目指す。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。